

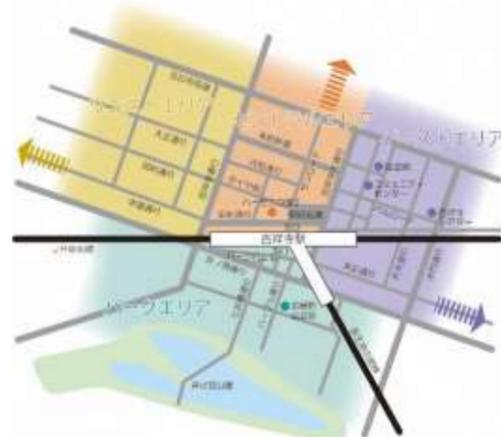
(仮称) NEXT-吉祥寺 2021(素案)の概要版

1 改定目的

- ・「NEXT-吉祥寺」の策定からおよそ10年が経過し、吉祥寺におけるまちの変化や新型コロナウイルス感染症拡大を含む社会情勢の変化、関連計画の策定や改正等、本市を取り巻く環境が変化。
- ・まちづくりについても複合的な課題が見られ、行政・地域住民・事業者等、吉祥寺のまちづくりに関わる様々な主体との連携がより一層求められている。
- ・「吉祥寺グランドデザイン 2020」で共有した吉祥寺の中長期のまちづくり方針を踏まえ、市と民間の役割分担を明確にするとともに、市が今後10年で進める施策とそれらが実現した際の吉祥寺のまちの姿を共有するため、改定を実施。

2 対象エリア

- ・吉祥寺駅を中心とした半径500メートルの範囲内が対象。
- ・エリア区分についても4つのエリアで検討。



3 「(仮称) NEXT-吉祥寺 2021」の位置づけ



4 これまでの取り組みの成果

- ・吉祥寺方式共同集配センターの整備
- ・JR吉祥寺駅の改良
- ・京王吉祥寺駅ビル建替え
- ・南北自由通路の整備
- ・(一社)武蔵野市観光機構の設立/吉祥寺まち案内所の開設



共同集配センターと公共自転車駐車場(2、3F)



駅前歩行空間

5 社会的情勢

- ・頻発する災害と地球環境問題の深刻化、感染症拡大の脅威
- ・少子高齢社会の到来
- ・高度情報技術の進展
- ・持続可能な開発目標(SDGs)及び訪日外国人の動向
- ・人の移動行動・暮らし方の変化とコロナ禍による影響

Point

- ▶ 多発する大規模災害に備えた市街地の安全性の向上 など
- ▶ 誰もが活躍できる場づくり、まちなかのバリアフリー整備の推進
- ▶ ICT等の新技術を活用したまちづくりや市民サービスの最適化 など
- ▶ 外国人を含む誰もが歩きやすい交通環境の整備 など
- ▶ 自宅周辺や地域で過ごせる生活環境の実現 など

6 吉祥寺をとりまくまちづくりの展望と「(仮称) NEXT-吉祥寺 2021」の推進

◆ 吉祥寺をとりまくまちづくりの展望

(1)ステークホルダー間の連携の必要性

- ・今後のまちづくりでは、「駅とまちなかとの連続性の強化」や各エリア内で進められている「既存事業・取組みのより一層の推進」が求められる。
- ・これまで進めてきた事業の中には、社会情勢の変化に合わせた対策や付加価値創出が求められる、行政、地権者、建物オーナー、事業者、NPO、大型店、地元商店会、地域住民、学生、来街者(以下、「ステークホルダー」という。)といった吉祥寺のまちづくりに関わる様々な主体との連携が必要。

(2)ステークホルダーの主体性を重んじたまちづくりの実現

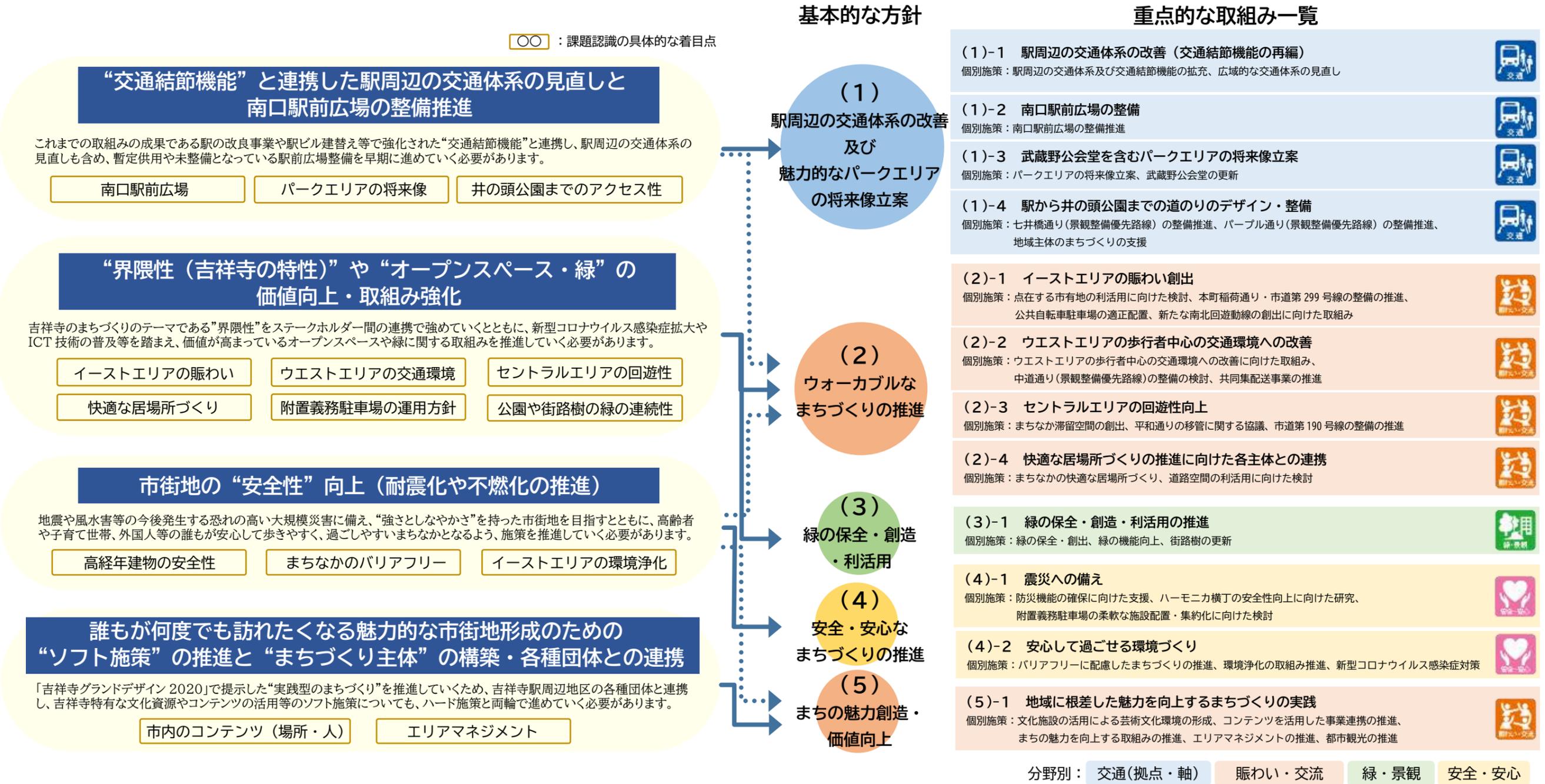
- ・「吉祥寺グランドデザイン 2020」では吉祥寺のまちづくりのテーマである「界索性」の実現に向けた仕組みづくり“3つのステップ”が提案され、各ステークホルダーが当事者意識をもってまちづくりに参画することが求められている。
- ・具体的なアイデアの実現として、「交通」や「居場所づくり」に関する社会実験が例示されているが、ステークホルダーによるこれらの取組みを通じて、吉祥寺のまちとしての魅力向上や過ごしやすいまちなか空間の創出が求められる。

◆ 「(仮称)NEXT-吉祥寺 2021」の推進

- ・今後の吉祥寺のまちづくりにあたっては、“ステークホルダー間の連携を図りつつもそれぞれが主体的にまちづくりへ参加する”ということに重点を置く。
- ・「(仮称) NEXT-吉祥寺 2021」のまちづくりは旧計画の成果と課題を踏まえ、今後10年で進める各種施策について、優先順位を明確にし、着実に推進。
- ・ステークホルダー間の連携が必要と考えられる取組みを「重点的な取組み」とし、各関係者と連携を図りながら、重点的な取組みを支える市の取組みと一体的に本計画に位置づけ、吉祥寺のまちづくり施策を推進。



7 まちづくりの戦略



8 まちづくりの推進方策

◆ 様々な主体との連携によるまちづくりの推進

- ・ 今後10年の吉祥寺のまちづくりにあたって、市は「(仮称)NEXT-吉祥寺2021」に基づき、重点的な取組みを中心に施策を実施。
- ・ 吉祥寺のまちづくりに関わる様々な主体も、積極的にまちづくりに参画し、ステークホルダー間の連携によるまちづくりを一体的に推進。

◆ 各種施策の進行管理

- ・ 改定後5年が経過するタイミングで、将来の社会情勢の変化や関連法令の改正等の状況を踏まえた各施策の実施状況を点検・確認。
- ・ 確認にあたっては、各種計画にある目標値等の進捗管理指標に基づき実施。

